

新型コロナウイルス時代のペット産業

大分市武漢事務所 趙 南星

■ 中国で加速するペットブーム

新型コロナウイルス感染症が発生してから3年目に入りました。この3年で多くの産業が不景気による停滞を余儀なくされる中、ペット産業は安定した成長を遂げました。

コロナ禍で予期せず自宅待機を強いられ、外部と接する機会が減り、寂しさを感じる人が増える中、癒しを求めてペットを飼う家庭が増えています。特に90年代以降に生まれた中国の若者は、未婚率が高く、子どもよりペットと暮らすことを選ぶ人が多いです。SNSを通じた飼い主同士の交流が盛んに行われていることも、近年のペット産業の成長を後押ししています。

「2021年ペット業界白書」に掲載されている情報によると、ペットを飼っている人は6,800万人以上、ペット産業における消費額は前年比20.6%増の2,490億元（約4兆9,800億円 *1元=20円計算、以下同様）でした。今年さらに伸び、2,693億元（約5兆3,860億円）になると予想されています。

■ 中国で人気のペット

最も人気のあるペットは、やはり犬と猫です。その他では、鳥類や爬虫類、魚類が人気です。特に人気なのは室内で飼いやすい、コーギーやトイプードル、ポメラニアン、ミニチュアシュナウザー、柴犬などの小型犬です。ボーダーコリー、ゴールデンレトリバー、シベリアンハスキー、秋田犬などの中大型犬もよく見かけられます。猫の品種では、スコティッシュフォールドやラグドール、プリティッシュショートヘアーが人気です。

価格は品種と血統により数千円から数万円までとバラバラです。例えば、今大人気の柴犬の相場は8,000～15,000元（約16万～30万円）、スコティッシュフォールドの相場は3,000元（約6万円）ほどです。



▲ペット美容院



▲多種多様なペットフード

※写真は武漢事務所スタッフ撮影

新型コロナウイルス時代のペット産業

大分市武漢事務所 趙 南星

■ペット産業経済

ペットの購入は、昔は「花鳥市場（かちょうしじょう）」という市場で、犬や猫、ウサギ、魚類など多種のペットと同じ市場で販売されていました。近年、品種と血統にこだわる購入者が増えた影響で、専門的なペットショップが増えています。SNSを利用した広告宣伝も多く見られるようになりました。

ペットを飼うにあたり、ペットフードは不可欠です。最近では、単にお腹を満たす為のものから栄養価値や健康維持の手段としての関心が高まり、ペットフードと言っても、主食、おやつ、栄養剤など細かく分類されています。また、ペットフードの消費額には地域性と飼い主の年齢層が大きく影響しています。都市部ではペットを飼う世代は20代が27%、30代が33%を占め、女性の比率が高いというデータがあります。加えて、72%の世帯月収は15,000元（約30万円）を超えています。ペット専用のプールや美容室、ホテルなどの施設の売りも好調で、愛犬のしつけのために1ヵ月6,000元（約12万円）もかかる高級ペットスクールに通わせる飼い主もいます。

ペットのヘルスケア関連市場はペット関連業界全売上の25.8%を占めています。医薬品、ワクチン、健康食品などの市場は年々拡大傾向にあります。ペットショップの店員によると、犬1匹のペットを飼うために必要なヘルスケア代は年間3,000元（約60,000円）ほどになるとのことでした。

ペットブームの到来で経済への良い影響がある一方、家庭と仕事環境の変化やペットの病気などが原因で飼育放棄に至ってしまうケースが年々増えている事も事実です。ペットは家族の一員です。命に対する責任をもって最後まで育てましょう。



▲動物病院



▲術後観察室 (ICU)

※写真は武漢事務所スタッフ撮影